

# あきる台たいむす

## Akirudai Times

**さつき薬局**  
秋川店  
0425-58-8416  
(あきる台病院すぐ前)  
介護用品・一般薬品・保険調剤  
月・火・水・木・金 9:00~18:30  
土 9:00~13:00  
※日曜・祭日はお休みです

**AKhp**  
Akirudai Hospital group  
-best care and nursing-  
〒197-0804  
東京都あきる野市秋川6-5-1  
TEL (042) 559-5761  
FAX (042) 559-8054

2021年(令和3年)12月 1日  
第36号  
発行人: あきる台病院(医療福祉相談室)



令和三年三月からあきる台病院に勤務している坂本と申します。  
主に一般内科の外来診療と病棟や特別養護老人ホームでの診察等を担当しています。  
岡山大学医学部を卒業後は内科研修を経て同大学院で疫学分野の研究に努め、筑波大学への国内留学の後に、病院で一般内科の診療に数年間従事しました。その後渡米し、米国食品医薬品局(FDA)という政府機関で、米国内に流通する医薬品や治験の審査及び医学研究に約十年間携わっていました。帰国後は、医薬品医療機器総合機構(PMDA)や厚生労働省で、日本国内に流通する医薬品の承認審査や治験の審査に携わりました。世界や国全体に向けた研

究や行政と、地域に対しての医療現場を行き来する中で、医師としての臨床の現場に携わることの大切さを改めて感じ、数年前から立川市内の病院で一般内科診療と救急医療に従事していました。  
近年、地球規模で人やモノの動きが一体化するグローバル化がますます進んでいます。新型コロナウイルスが急速に世界に広がったのは、グローバル化が進んでいたことが原因の一つと考えられています。通信関連の技術革新はめざましく、世界の医療情報が伝わるスピードも非常に速くなりました。例えば、スイスのジュネーブにある世界保健機関(WHO)で発表された内容が、数時間後には日本のインターネットサイトで紹介され

### あきる台病院 医師の紹介

医師 坂本 典久

ていますし、他国の製薬企業が開発したワクチン関連の情報も日本国内ですぐに伝えられています。  
一方で時間が経過しても変わらないことでもあります。今から百年ほど前の大正時代に流行したスペイン風邪(インフルエンザ)では約三十八万人の日本人が亡くなりましたが、その時の新聞報道では「マスク着用や手洗い・うがいの奨励、人との距離を保つこと」がしきりに叫ばれ、国と各地域の自治体が連携し住民に協力を呼びかけていました。

グローバル化が進み便利なのの中になっただけですが、結局いつの時代でも、それぞれの地域における人と人とのつながりが大切であり、その基盤の上で世界が成り立っているのだと再認識しました。  
医師として、これまでで得た知識と経験を活かしつつ、あきる野の地域に根ざした医療に貢献できるように診療をしていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。

### インフルエンザワクチン

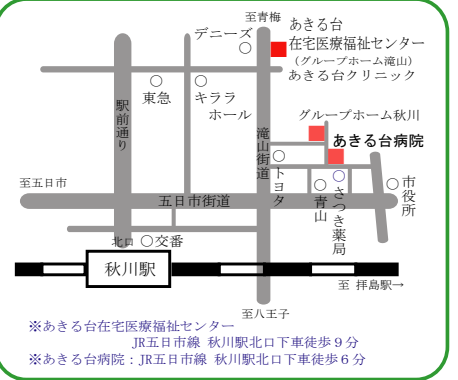
令和3年12月現在、あきる台病院では「インフルエンザワクチン予防接種」を外来にて受け付けています。  
ご希望の方は外来受付時にお申し出ください。



**オレンジカフェ あきる野**  
オレンジカフェとは、認知症の方とそのご家族が気軽に立ち寄れる集いの場のことです。認知症の方とそのご家族だけでなく、地域のご高齢者の方、医療や介護の専門職などが自由に参加し、世話や相談などしながら交流を深める場ともなっています。

- あきる野市高齢者 在宅サービスセンター**
- ・萩野センター (042) 550-2722
  - ・五日市センター (042) 533-0330
  - ・開戸センター (042) 550-2755

**あきる野グループホームボランティア募中**  
あきる台グループホームでは、お年寄りの方々と楽しく過ごしていただけるボランティアを募集しています。  
※詳しくは医療福祉相談室まで



## ～震災に備えた防災対策の取り組み～

災害対策本部メンバー 看護師 高水 幸子

平成23年 東日本大震災の時には、あきる野市でも震度3強の揺れを観測しました。私は、院内にいましたが、建物全体が大きく揺れ、恐怖を感じたことを覚えています。幸い物の崩落等はなく、被害はありませんでしたが、慌ててしまい、適切な行動がとれなかったという職員からの後日談も少なからず聞きました。

平成28年には、熊本地震が発生。TV等を通じて、現状を知りました。災害はいつやってくるの分かりません。災害発生時の対処能力を高めるには、災害を想定した事前準備や訓練が重要であることを再認識しました。

今回、あきる台病院災害対策本部の取り組みについて紹介させていただきます。平成29年、災害時に迅速に対応できるよう、災害対策本部のメンバー構成を行いました。最初に行ったのが、本部メンバーの教育です。施設管理部 浦野氏から、病院施設の構造、避難経路や電気が止まった際の自家発電装置の供給、自家発電のための燃料の供給、受水槽、雑用水道、下水の活用方法の説明を受けました。栄養管理部 須崎氏からは、食料飲料水、食料の備蓄場所に関して、薬剤部 齊藤氏からは、医薬品確保の説明を受け、各メンバーが理解を深めていくところから始めました。また、軽症者、重傷者に対する救命処置実施方法。避難場所の確認。帰宅困難になった際の休憩スペースの確保。各部署への災害対策用物品の配置。トリアージタグについての教育等も行いました。

災害発生時には、建物の被害も想定されるので建物被害状況の確認、各部署からの報告をシート上に分かりやすく集計し、的確に診療提供能力を把握することができるようになりました。同時に重傷者、軽症者の状況確認、治療、処置の指示、帰宅困難者への対応、食事の提供、他院への搬送連携、職員勤務状況の確認など災害対策本部メンバーが担当する業務を明確化し、迅速に対応できるようにしました。

年1回の大規模災害訓練は、震度5以上の地震が発生したと仮定し、職員が患者役、利用者役、受診者役になり、重傷者、軽症者を設定し、訓練を実施しています。院内放送や災害対策本部の立ち上げ、立案した災害対策を実際に行ってみることで、役割の確認や見直しを行っています。このように、日頃から備えや訓練を重ねていたとしても、いざ災害に直面した際には、自身の役割を確実に果たすことは難しいかもしれません。だからこそ、災害発生時に、冷静に対応できるよう、定期的に職員に周知を図り、意識して行動ができるよう、働きかけを行っていくことが重要であると思っています。

職員の安全確保、入院患者様、外来患者様、ディサービスやリハビリテーションに通う利用者様、健康診断を受ける受診者様の命を守り、医療機関として医療を提供するといった機能を継続できるよう努めていきたいと思っております。

介護を学ぶなら

□ お問い合わせ □  
TEL: 042-550-6102



あきる台病院 介護学院

介護職員初任者研修・介護職員実務者研修

確かな技術  
快適性  
安心

人間ドック



あきる台病院 健診センター

皆様の健康を、心・身・社会の観点から多角的に  
チェック・確認し、適切なサービスで支援します

□ お問い合わせ・ご予約はこちらまで □  
TEL: 042-559-5449/2943（直通）